

第 59 回日本母性衛生学会総会・学術講演会

テーマ 朱鷺の国から ～母性衛生のさらなる飛翔へ～

大会長 高桑 好一

(新潟大学医歯学総合病院 総合周産期母子医療センター 教授)

開催年月日 平成 30 年 10 月 19 日(金)・20 日(土)

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

総参加人数 1,806 名



第 59 回日本母性衛生学会総会・学術講演会を終えて

第 59 回日本母性衛生学会総会・学術講演会を平成 30 年 10 月 19 日(金)と 20 日(土)に、新潟市の信濃川河口を望む朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターにおいて開催いたしました。

本学会の第 1 回の学術講演会は昭和 35 年に開催され、60 年近い歴史を有しますが、新潟市での開催は昭和 50 年(1975 年)に第 16 回の学術講演会が開催されて以来 43 年ぶりの開催となりました。

今回の学術講演会を開催するにあたり、テーマは「朱鷺の国から ～母性衛生のさらなる飛翔へ～」といたしました。”*Nipponia nippon*”の学名を持つ朱鷺は一時絶滅の危機にありましたが、新潟県の佐渡島において関係される方々の大変な努力により繁殖に成功し、優雅に飛翔する姿が見られるようになりました。現在わが国の医療環境は、各種医療統計から明らかのように、世界に誇れる充実したものとなっており、母性医療の領域においても同様のことがいえる状況です。一方で年間の出生数が 100 万人を下回り、少子高齢化が現実のものとなりつつあり、母性医療を取り巻く環境も今後大きく変化していくものと思われます。今回の学術講演会では、母性医療の現状と課題を見据え、さらに将来の発展の可能性などを **discussion** する場にしたいという思いからこのようなテーマとした次第であります。



会を開催するにあたり、一年以上前より実行委員会を立ち上げ、新潟大学医学部産科婦人科学教室主任教授の榎本隆之先生、第 34 回日本分娩研究会会長の徳永昭輝先生、新潟県産婦人科医会会長の吉谷徳夫先生を始めとして、県内の多くの産婦人科医、また新潟県助産師会、新潟市助産師会、新潟大学医学部保健学科、新潟青陵大学看護学部の皆様にも実行委員会に加わっていただき、専門家の意見を取り入れながら学術プログラムを企画いたしました。



招請講演は女優・戸板女子短期大学教授の菊池桃子氏による「優しさ溢れる未来のために」、会長講演は「胎児が母体の中で育つ不思議 ～妊娠と免疫の関わりなどを通して～」、他に特別講演 2 題、教育講演 7 題、シンポジウム 5 題、ワークショップ 1 題といたしました。また市民公開講座を 2 題開催し、多数の市民が訪れ熱心に聴講されておりました。実践講座といたしましては、1 日目の午前・午後で超音波実践セミナーを開催し、「胎児推定体重計測」「3D/4D 超音波」「胎児心臓評価」「経膈超音波」のブースに分かれてハンズオン形式で行われ、助産師を中心とした参加者からは大変好評でありました。一般演題は計 487 題(口演 234 題、示説 253 題)が寄せられ、各会場で大変活発な意見交換が持たれました。





最後に本総会・学術講演会開催にあたり、お力添えやご支援を賜りました池ノ上克理事長を始めとする学会役員の皆様、学会員の皆様、実行委員会・学会当日スタッフの皆様、新潟大学医学部産科婦人科学教室関係の先生方、ご後援を頂いた新潟県・新潟市・新潟県医師会・協賛企業の皆様に厚く御礼申し上げます。

開催概要(敬称略)

招請講演:菊池 桃子「優しさ溢れる未来のために」(座長 高桑 好一)

会長講演:高桑好一「胎児が母体の中で育つ不思議 ～妊娠と免疫の関わりなどを通して～」(座長 関 博之)

特別講演:

- (1) 齋藤 昭彦「子どもを守るための予防接種 ―母親、家族ができること―」(座長 伊藤 博之)
- (2) 榎本 隆之「妊娠中の子宮頸部浸潤癌の取り扱い」(座長 池ノ上 克)

教育講演:

- (1) 中塚 幹也「LGBT の基礎知識と医療の実際」(座長 藤原 浩)
- (2) 大橋 一友「母性衛生の途上国への新たな国際展開」(座長 瓦林 達比古)
- (3) 出口 雅士・山田 秀人「不育症診療の現状と課題 ～さらなる妊娠予後改善にむけて」(座長 山田秀人)
- (4) 松田 義雄「胎児心拍数陣痛図(CTG)モニタリング:なぜそうなる?を考えながら、管理しよう」(座長 佐々木 純一)

- (5) 吉田 好雄「産後から始まる骨盤ケア ～骨盤臓器脱とサルコペニア～」(座長 笹川 寿之)
- (6) 森 恵美「高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインに則った看護ケア」(座長 吉沢 豊予子)
- (7) 石井 桂介「母児の予後を見据えた望ましい多胎妊娠管理」(座長 下屋 浩一郎)

シンポジウム①「母性医療と国際貢献」(座長 正岡 直樹・大橋 一友)

- (1) 山口 雅幸「国立6大学によるミャンマー医療支援プロジェクト ―母性医療を中心に―
- (2) 松岡 貞利「何が母性保健サービスの利用を阻むのか? ナイジェリアおよびカンボジアからの報告」
- (3) 佐山 理絵「タイとラオスの産後慣習にみる "cultural competency"」
- (4) 小黒 道子「ミャンマーの安全な出産環境の実現に向けた多様な取り組み」
- (5) 田中 和子「インドネシアの周産期ケアの現状と課題」

シンポジウム②「妊娠高血圧症候群と周辺疾患を考える」(座長 関 博之・山崎 峰夫)

- (1) 関 博之「妊娠高血圧症候群の病態と新定義・分類から見たその周辺疾患」
- (2) 目時 弘仁「妊娠高血圧症候群診断の基礎となる正しい血圧測定について」
- (3) 西島 浩二「妊娠高血圧症候群に関連した中枢神経障害」
- (4) 牧野 真太郎「妊娠高血圧症候群の定義分類改訂と新たな治療戦略」
- (5) 能仲 太郎「妊娠高血圧症候群の予防を考える ～免疫的観点からの治療オプション～」

シンポジウム③「リプロダクティブ・ヘルス/ライツを考える」(座長 北村 邦夫・小柳 恭子)

- (1) 勝部 まゆみ「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツを考える ～日本の課題」
- (2) 北村 邦夫「わが国の深刻化する少子化問題、その原因を徹底分析」
- (3) 吉森 容子「地域に根ざした生・性教育の取り組み」
- (4) 高橋 健太郎「学校における性に関する指導の進め方 ～親になるための思春期からの切れ目ない教育支援～」
- (5) 横田 佳昌「日本の生殖医療の現状と問題点 ～一般不妊治療を見直しましょう～」

シンポジウム④「産科混合病棟を考える」(座長 齋藤 いずみ・定方 美恵子)

- (1) 齋藤 いずみ「データで示す産科混合病棟 学際的研究により多角的視点から可視化し、総合的に安全と質を保障するシステムを作る」
- (2) 北島 博之「感染管理と看護ケアにおける心の問題点」
- (3) 樋口 浩美「地域中核病院の産婦人科混合病棟の現実と課題」
- (4) 古宇田 千恵「産科混合病棟に潜む声にならない声 ―肯定的出産体験の欠如―」
- (5) 福井 トシ子「産科混合病棟の構造を変える」

シンポジウム⑤「要医療支援児とその家族を支えていくために」(座長 和田 雅樹・奈須 康子)

- (1) 庄司 なおみ「家族とともに ～出生から退院・地域へつなぐ看護～」
- (2) 新保 亜希子「NICU 入院児支援コーディネーターとしての取り組み」
- (3) 沼田 修「当院 NICU での要医療児とその家族への支援」 —入院中からはじめる切れ目のない支援をめざして—
- (4) 古海 英美子「医療的ケア児の在宅療養を支えるために ～行政での取り組み～」
- (5) 寺澤 大祐・都竹 淳也「医療的ケア児と家族を支えるための 37 の取り組み ～岐阜県庁と現場とのコラボレーション～」

ワークショップ「これからの産後ケア」(座長 渡邊 典子・安達 久美子)

- (1) 島田 真理恵「産後ケアで助産師が担う役割とは ～基本的な考え方と産後ケアガイドラインの作成～」
- (2) 小田 容子「病院における産後ケア」～病院から地域への産後支援の取り組み～
- (3) 山崎 圭子「母親からみた産後ケア」
- (4) 佐山 光子「働く女性への産後支援」～働く女性に着目した産後支援のあり方～
- (5) 水品 きく枝「社会的養護(育てることへの支援)について」

市民公開講座①「性感染症を予防しよう」(座長 杉浦 真弓)

- (1) 三鴨 廣繁「性感染症に関する最近のトピックス」
- (2) 齋藤 益子「子どもたちを性感染症から守ろう」

市民公開講座②「遺伝医学の進歩と母性医療」(座長 福島 明宗・関根 正幸)

- (1) 関根 正幸「乳癌・卵巣癌と遺伝のはなし —遺伝子検査から新薬の登場まで—」
- (2) 生野 寿史「新型出生前診断(NIPT)と遺伝カウンセリング」
- (3) 四元 淳子「遺伝性乳がん卵巣がんと NIPT の遺伝カウンセリング」
- (4) 有森 直子「出生前検査の決定を支援する」